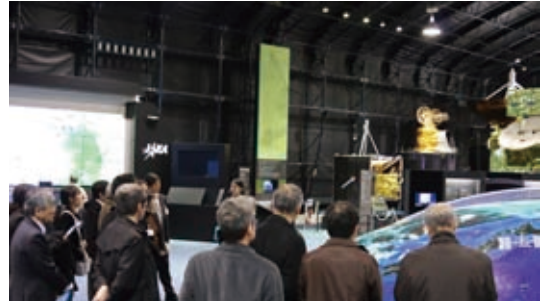


## 2013年度 地球環境委員会 見学会

地球環境委員会（委員長：野島嘉之 三菱商事(株) 環境・CSR推進部長）では、委員各社の環境担当者の環境教育に資することを目的とした見学会を毎年実施している。2013年度は、2月20日、気候変動など地球環境研究、循環型社会構築に向けた研究、人工衛星を通じた地球観測等に関する最先端の科学的活動を行っている(独)国立環境研究所および(独)宇宙航空研究開発機構を訪問した。見学会へは、委員会社11社の環境部門担当者など17人が参加し、研究成果等の解説を受けるとともに、関連施設を見学した。

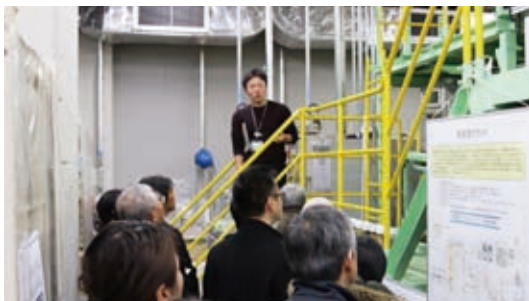
国立環境研究所（NIES）は、環境行政の科学的・技術的基盤を支え、幅広い環境研究に学際的かつ総合的に取り組んでいる。NIESにおいて環境研究の柱とされている8分野のうち、見学会では、資源循環・廃棄物研究センターおよび地球環境研究センターの研究員よりそれぞれ説明を受けた。資源循環・廃棄物研究に関しては、研究棟内にある埋め立て処分シミュレーターや熱処理プラントを実際に見ることができた。また、地球環境研究に関しては、国際線定期旅客便を使った温室効果ガス観測の官民共同プロジェクト（CONTRAILプロジェクト）について、二酸化炭素濃度の観測結果なども併せて解説がなされた。



展示館での解説（JAXA）

宇宙航空研究開発機構（JAXA）では、展示館での人工衛星やロケットなどに関する解説に続いて、国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の運用管制室を見学した。厳重なセキュリティーに守られた運用管制室では、3つある大画面モニターのうち1つに、国際宇宙ステーションのロボットアームが映し出されていた。最後に、地球観測研究センターの研究員より「宇宙から見た地球環境」と題して、衛星によるリモートセンシング（地球観測）の現状や観測データを具体的な対策につなげる重要性について説明を受けた。

環境問題への取り組みの土台となる科学的データが実際にはどのように観測されているのか。また、その研究現場ではどのようなことが考えられているのかを知る大変貴重な機会となった。（企画グループ）



廃棄物の熱処理プラントの見学（NIES）



JAXA職員による講演